

令和 5 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)

いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立博多工業高等学校		学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価(総合)	
学校長	ふりがな	ふくおか てつろう		「第2次福岡市教育振興基本計画」に則り、市立高等学校の活性化へ向けた具体的方策を組織的に取り組み、「都市型工業高校」を目指す。そのためには、現在の質と価値を維持し、存在意義を明確にする。 (1) 「Challenge博工」の学校スローガンを掲げ、進路実現(進路保障)をメインテーマとし、ものづくり・資格取得・部活動の活性化において、生徒を磨き、教職員とともに「日本一の工業高校」になる。 (2) 創立90周年を見据え「NEXT STAGE博工」～未来の自分をつくる、未来の博工を創る～の具体的方策を策定し推進する。		合い言葉：「工業高校として尖る」		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	福岡 哲朗							
校長本校在任年数		1 年		※都市型工業高校とは 九州最大の都市である商業都市福岡において、工業の専門を生かした100%の進路実現のため、最先端技術を身に付けたスペシャリストを育成し、就職はもちろんのこと、進学への対応も充実させ、バランスのとれた進路を実現する新たな工業高校像のこと。		(1) 新たな都市型工業高校の創造 「都市型工業高校」創造プログラム～Society5.0 を生き抜くものづくり人材の育成と時代のニーズと共生できる工業高校の創造～の着実な推進 (2) 組織的な学校運営 教職員のもっている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたる。 (3) 危機管理の徹底 日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。 (4) 希望進路の実現 ガイドンスの機能をさらに充実させるとともに、各々の進路に応じた学力の定着を図る。		B	B
学校関係者 評価委員会 委員長	ふりがな	よしづみ まさたか							
	氏名	吉積 正孝							

昨年度の成果と課題
 ◎成果:①ICT活用について、研修会を通して各教科の取り組みを発表し、活用事例が共有でき、活発な意見交換ができた。②コロナの制限が緩和され学校行事がある程度再開できた。③支援が必要な生徒に対し、きめ細かな対応ができた。④知的財産教育において、1年生対象のアイデアコンテストを実施した。
 ◎課題:①学校改革に向けて、全職員の共通理解と意識の統一②全職員による継続した粘り強い指導③早期離職の防止④進学コースに対応した新しい推薦内規の周知と共通理解⑤WITHコロナを見据えた、学校行事の実施に向けた創意工夫⑥校外の人権研修への参加者の増加

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点			
	目標	具体的な方策								
教育課程・学習指導	可能性及び能力を最大限に伸ばさせる授業への取組み	ICTを活用した授業の拡充を行う。	B	ICTのさらなる活用法について模索を続けている。WiFi環境の充実を望む声現場から上がっている。授業改善の取組みとして授業改善アンケートを1学期と2学期に実施した。生徒と教員のアンケートを実施し、改善について検討を行った。評価方法については観点別評価導入2年目となり、反省に基づき教務内規の改訂を進めている。	B	・生徒と教員に改善アンケートを実施している事は良い事であると考えます。少数派の意見も活用していただく事も重要で改善に繋がっていくものと考えます。WiFi環境の早期充実が必要だと思います。 ・生徒の授業を保護者や学校関係者対象にオープン授業参観(不定期)を行うことは、どうでしょうか。 ・ICT活用事例と効果や有効性の標記を望みます。授業規律は確立から更に進んだ高い目標を掲げてもらいたいと思います。	授業法については、これで終わりということはない。教える内容や指導法については、日々進化している。この進化に対応するため、日々のアップデートが必要である。生徒や教職員のアンケートを基に改善を図り、より良いものにしていく。そうすることで生徒の学習がより深まると考える。			
	授業規律の確立	授業と評価の一体化について、PDCAサイクルを意識した検討を行う。 教室環境の整備および整理・整頓の徹底を行う。 チャイム席を守る。	B					B	授業規律については、ある程度守られている。しかし、教員側が注意を払っていないと崩れる可能性がある。細かいところを見逃さずに指導を継続する必要がある	授業規律について、全ての教員が同じ意識を持ち、情報共有を行い、更なる向上を目指す。
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	礼節を重んじた指導の徹底を行う。(より良い行動の積み重ね) 全職員、生徒会生活委員会による登下校指導(挨拶・身だしなみ・自転車マナー)と風紀検査での徹底指導を行う。					B	B	B
進路指導	確かな進路実現(就職指導)	正しい生活習慣と基礎学力を定着させた生徒を育成することで、企業との信頼関係を確立させる。 キャリア教育の充実・企業との連携により、職業理解を深める。	B	各学年LHR等を通じて進路に関する取り組みができた。また、今年度も2年生のインターンシップを実施することができ、社会性・勤労観を身に付けさせることができた。早期離職に関しても、様々な進路ガイダンスを通して少しずつ改善されている。	B	・離職防止への対策は評価できます。逆に早期離職した者へのヒヤリング等を実施し、その原因を明らかにすることができ、社会性・勤労観を身に付けさせることができた。早期離職に関しても、様々な進路ガイダンスを通して少しずつ改善されている。	現在の社会情勢の中、求人数については十分に確保できている。インターンシップについて、実施可能期間を延ばし、全ての生徒が参加しやすくして、勤労観の育成に努める予定である。これらの取り組みを、離職防止に繋げていきたい。			
	確かな進路実現(進学指導)	大学入試改革への対応(指定校推薦入試への依存からの脱却や、専門コースからの国公立大学専門高校枠入試への挑戦など)について論議し、理解を進める。 進学コースの体制整備(選抜方法の改善や推薦内規の周知、高大連携を含めた活動計画の策定など)を行う。	B					B	・学年部・各教科の協力を得つつ組織的な進学指導に取り組んだ。しかし、入試方法の多様化により一般入試以外の受験が増え、特に総合型選抜への対応の強化が課題である。進学コースに対応した新しい推薦内規の適用について今後も綿密な共通理解を図る必要がある。	進路部人員配置について、工業科と普通科の教員の割合を変え、進学指導の強化を図る。
	特別活動	生徒会・部活動の活性化	生徒会専門委員会における諸活動の活性化を図る。 部活動生の意識向上と諸活動の活性化を図る。					B	B	B
工業特色	「ものづくり」技能・技術の向上、工業各科の授業・実習内容の向上・見直し	各科の工業に関する専門性を向上させるため、外部との連携を積極的に図る。課題研究の充実のため学科横断的な取り組みを推進する。知的財産教育に関して計画的な取り組みを実施し、定着を図る。 ものづくり技術を向上させ、競技会などでの成果を高める。地域や中学校に対する広報活動を充実させ、本校の取り組みを積極的にアピールする。	B	外部連携に関しては、ものづくりマイスターによる専門指導や、地域との連携を行った。課題研究では、電子情報科と自動車工学科の連携を行った。知的財産に関しては、1年生のアイデアコンテストや2年生の外部講演を組織的計画的に行った。ものづくりコンテストでは、旋盤・家具工芸部門が県大会優勝を立し、旋盤部門は全国大会出場を果たした。	B	・朝補習に関しては教員の時間外労働など課題が多いのではと察します。先生方のご苦勞には、頭が下がります。 ・地域の城南フェスティバルなど、集客の大きいイベントで博多工業のアピール等続けてください。 ・ものづくり評価は工業高校の魅力です。今後も各大会で良い評価となるよう期待します。 ・就職で履歴書に複数の資格が記載されている方が優位に見られます。個人の生活環境によりですが、できるだけ資格取得を指導してください。 ・工業教育としての教育効果の一端は、各種コンテストや資格取得結果が示すことができます。今後も実績の維持・向上を図る指導努力を切望します。	外部連携に関しては、ものづくりマイスターによる専門指導や地域との連携を継続して行いたい。各科を横断した課題研究の取り組みについては、現在試行中であるが、今後発展させていくべき取り組みになると考える。来年度は、複数の学科での取り組みを模索する。			
	資格取得・各種検定合格率の向上	資格取得プログラムを充実させ、専門性の高い資格や、難易度の高い資格習得を目指し、ジュニアマイスター顕彰の認定者の増加を図る。 資格取得指導を充実させるための、新たな指導体制の確立を図り、教員の資格指導に関する資質・専門性の向上を図る。	C					B	昨年度まで行っていた、有料朝補習を一学期のみに行い、2学期以降は、任意で朝学習を行う体制に切り替えた。ジュニアマイスター申請者数が減少しており、資格取得の指導時間が現状以下とならないため、次年度以降の指導体制は本年度2学期の朝学習を継続して行うようにした。	資格取得に関しては、働き方改革に伴うシステム変更で、取得数が減少している。職員の負担を軽減しながら、効率よく取得数を増やす工夫が必要となる。引き続き検討を進める。
	修学支援	生徒の自己実現に寄り添い、支援する 各種奨学金・給付金制度への相談体制を充実し、周知と理解を広げる。 校外内外で実施される研修会や学習会への積極的な参加を促進する。 屋形原特別支援学校との交流学習を実施する。	B					B	B	問題を抱える生徒に対して、細かい支援ができたことと評価している。また、奨学金や給付金の相談体制も年間を通して充実を図ることができた。今後も引き続き、生徒が抱える問題を把握できるよう努めるとともに、それにしっかり対応していくことを課題としたい。 昨年度に比べ、校外で実施される教員の人権学習会への参加者が増えたことは評価したい。また、屋形原特別支援学校との交流学習も昨年度以上に生徒の希望参加があり、充実した交流が実施できた。今後も学校全体における人権教育推進を高めることを課題としたい。

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度)で成果や取り組み状況等について記入すること。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。